




発行日 令和3年11月17日
 発行者 社会福祉法人 みのり会 中台育心園 園長/千葉桂資
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市大字中431-20
 電話 0299 (69) 2222
 FAX 0299 (69) 2237
 ホームページ <https://nakadaiikushinen.jp/>

今月の生活目標

- 【單元】
 勤労の尊さ 
- 【目標】
 勤労の意義や尊さを知り、健康で働ける（生活できる）ことに感謝できるようになりましょう。
 喜んで働く態度や親切な心を持って、皆のために尽くしましょう。

「地球の出」

相談支援専門員 千葉浩子

先日NHKの番組で、高感度カメラによる映像が紹介されていました。「日の出」ならぬ「地球の出」の映像は美しく衝撃的なものでした。ある一定の条件が重ならないと「満月」のように欠けることのない「丸い地球が昇る様子」を動画で映し出すことはできないそうです。高感度カメラを搭載した人工衛星から送信された映像「満地球の出」は、漆黒の宇宙の闇の中、本当に「瑠璃色の地球」でした。目を奪われ、心を洗われる思いでした。また、宇宙に浮かぶ月にズームインして月のクレーターをはっきりと映し出した動画も紹介されていました。こちらの映像からも科学の進歩をまざまざと見せつけられる思いで目が釘付けになりました。月の地面を高画質ではっきり見ることができるようです。

私の住む宇宙「地球」日本では、その昔、夜空に浮かぶ十五夜の月を愛でて、月には兎が住むとか住まないとか想いを巡らしていました。

近年の科学技術の発達により、今の時代に生きる私たちは、宇宙の中の銀河、惑星、地球、月の様子を現実の映像として知り得ることができています。

「小惑星探査機はやぶさ」の帰還。「はやぶさ2」が地球近傍小惑星「リュウグウ」への着陸及びサンプリングを行ったニュースに感動し心躍らせたのも記憶に新しいことかと思えます。

私は、昭和〜平成〜令和の時代を生かされている一人ですが、幼い頃にアニメや映画の中の出来事として想い描き夢のように思っていたことが、現実化されてきています。中でもAI技術の発展にはめざましいものがあります。工業用ロボットを使い作業の効率化を図ったり、人間では立ち入ることのできない場での作業ロボットの活用化。最近のニュースで紹介されていた無人のハンバーガーショップ。

医療や介護の現場でも、コロナ禍に於ける診察や治療にAI技術が活かされていたり、介護ロボットを開発し現場で利用する場面があったりと多岐多様に渡りAI技術が利用されるようになってきていることはご周知のとおりかと思えます。

科学技術の発展により、夢が実現してきている現代に生きている人間。夢が何でも叶えられていく希望を持つ一方、どこか危うさも感じている人たちは少なくないのではないかと思います。

「地球の出」の鮮明な映像を見ながら、「地球上に今、生を受けているちっぽけな存在の私」がすぐに頭

をよぎりました。でも、グーグルマップでズームインしていくと、どんな場所にも人が生きていて、その一人の人にも歴史があつて、「生かされている」のではなく「生きていく！」その壮大なドラマを乗せて地球が回っていると考えると、人間の凄さや素晴らしさを感じずにはいられません。

映画やドラマで、人類がAIに乗っ取られてしまうといった内容のものが多いのを感じ、これも現実にと恐怖を感じているのは私だけでしょうか。

中台育心園では、年間行事として、お花見・七夕・夏祭り・芋ほり・新年祝賀会・節分等々季節に合わせた行事を行っています。利用者の方たちが、日本の季節や昔からの風習、自然の営みを感じながら生活して欲しいという思いから、毎年実施しています。

コロナ禍に於いても自然や季節や歴史を感じとることはできます。来年度には「お月見会」や「桃の節句」も復活させて。「紅葉狩り」もいいですね。季節の風や匂いや音を感じとったり、月や星を愛でて語り合えるようになれるといいなと思っています。私たちは、この地球上に人間として生を受けました。一日一日を心豊かに生きたいものです。

地球上の日本に住むちっぽけな一人の人間のささやかな夢です。

『アップデート』

生活支援員 兼子 絵理

今年度も大学生3名が約2週間の実習に来ました。新型コロナウィルスの感染予防の影響で、外部との交流が殆どない中で生活でしたが利用者さんにとっては実習生の存在がとても良い刺激となり、一緒に活動や支援を通し楽しい思い出になりました。

実習期間中に学生から質問や疑問があると「この方はこのような事があって、こんな経緯でこのような支援をしています。」と、説明をして個々の特性について伝えていきました。ある日の会話中の事です。精神疾患の話になりましたが、大まかな症状は知っているけれども詳しく説明できるだろうか・・・と不安になりました。その日は自宅に帰ってからネットを使い調べてみました。AとBの疾患の事を混同していたり、曖昧な事が多かった事に自分の勉強不足を痛感しました。そのまま調べるのに夢中になり、かなりの時間を費やしてしまつた事を覚えています。

まうことが分かりました。その日から、この人はなぜこのような行動をするのだろうか？と私自身も考えを多く持つようになり、気になったら調べる・・・を繰り返しています。例えば知的障害についてではどのような事に対して苦手なのか？何が得意なのか？を考えていくと個々の特性についての理解が深まり、この様な事が苦手なので、このような対応をしています。〇〇は得意なのでこのように活かしています。といった風により具体的に伝えていくことができます。まさに十人十色の特性が見えてきたように思います。

余談ですが、日々の会話の中で「コロナコロナって毎日コロナだね」と言った後に「コロナってそもそもなに？」と思いました。コロナが流行り出した頃にニュースで得た知識はありましたが、改めて考えると不安になりました。皆さんはコロナをきちんと説明できますか？

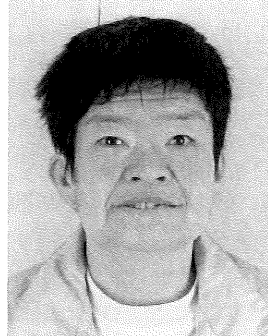
日々変わりゆく生活の中では沢山の情報が溢れています。中には誤った情報も。自分の持っている知識を正しくアップデートしていくことで新しい知識を得る事が出来ます。気になったら調べ、情報を塗り替えて行くことが大事であると学びました。今後の支援の幅を広げるため、自分自身もより一層アップデートできよう頑張りたいです。

新しい仲間が増えました

よしざきとしひこ
吉崎敏彦さん



かとうのいくよ
上遠野郁代さん



令和3年度 勤労感謝祭自粛のお知らせ

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、毎年恒例となっております中台育心園 勤労感謝祭は、今年度も利用者と職員で行うことにいたしました。

大変勝手ではございますが、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

厨房だより

「おいしーね」

調理員 中村和栄

昨年の7月から入職し、あつという間に1年が過ぎ去りました。

当初は仕事も分からず、毎日が不安で心と体に余裕など全くありませんでした。でも、そんな時、利用者さんから「中村さん！」と名前を呼んでくれ、「ご馳走様。美味しかった。」と声をかけてくれるようになりました。その言葉に勇気づけられ、もっと美味しい給食を提供したいと思えました。調理員全員で会議を設け、作る時間や配膳時間の配分など、作り立てを提供するにはどのように工夫したらよいか等の話し合いを重ね、日々試行錯誤しています。そんな中、時折一人で勤務する事があるのですが、「手伝いにきたよ！」「今日は一人なの？」「頑張つてね。」などなど・・・とても温かい言葉をかけてもらえます。コロナ禍の中、外出できない状況では給食をととても楽しみにしてくれていると感じます。美味しい給食で励ますつもりが、私の方が励まされています。これからも「美味しいね♥」と言って頂ける給食を頑張つて作っていきたいです。

グループだより

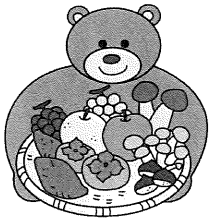
★ひまわりグループ 「兄貴肌」

9月からひまわりグループに新しく吉崎敏彦さんが仲間入りしました。ミッキーとドラゴンボールと観月ありさが好きで、はにかんだ笑顔がチャーミングな吉崎さん。

そんな吉崎さんですが、恥ずかしがり屋なのか職員とはいろいろお話をしますが、グループのお友達にはなかなか話しかけることができないようでした。そんな時、最初に声をかけてきてくれたのは鳥居さんでした。

鳥居さんは自分の漫画を見せてあげたり、吉崎さんの話を優しく聞いてあげたりと、年齢は鳥居さんの方がずっと下ですが、まるで弟の面倒を見るお兄さんのように、とても微笑ましく見ているこちらもほっこりしてしまいます。吉崎さんも嬉しいようで、余暇の時間に鳥居さんの部屋に遊びに行っているようです。今日はどんなお話をしているのでしょうか。

〈林〉



★すみれグループ 「まだまだ負けられないゾ!」

皆さんはどんな秋を過ごしましたか? 読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋・・すみれグループの皆さんは美味しい物を食べるのが大好きなのでもっぱら「食欲の秋!」と思っ

ていましたが、なんだか違う秋となったようです。

ある日の朝の集い前。職員と男性利用者陣の若手軍団がダンスをしていると、すみれグループ団も目が惹かれたのか激しいダンスが流れるとゾロゾロと身体を動かし始めました。皆で踊っている中、椅子に座り足や手を大きく動かしている2人組が目にとまりました。なんと! 今年80歳を迎える辻さんと最高齢88歳の村田さんではありませんか! その動きは「若者に負けてたまるか!」とばかりに思いっきり身体を動かす姿にヒヤヒヤ・・。でしたが、なんと! 疲れた表情も見せずに一曲きっちり踊り終えていました。すぐさま駆け寄り大丈夫かと聞くと「こんな位で疲れませんよ!」と余裕の村田さん。「楽しかった!」と清々しい辻さん。心配した私が間違っていたのかと一瞬思ってしまった(笑) 高齢だからと言って動けないと決めつけるのではなく、日頃から身体を動かし負けない心を持つことが若さの秘訣なのかもしれませんね。これ

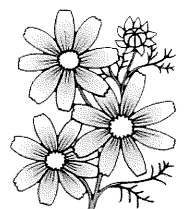
からもたくさん身体を動かしてパワフルな皆のお姉さん? で居て下さいね! 私も負けじとパワフル全開で業務に努めていきます! (神原)

★あざみグループ 「きれいな園庭」

ある晴れた夏の日。あざみグループの作業班の坂本さん・菅谷さんの二人は、暑い中でも進んで外作業に参加してくれま

す。「今日も暑いけど大丈夫?」と聞くと、坂本さんは「用意しました!」菅谷さんは職員の所に駆け寄ってきて「行ってくるね!」と、元気いっぱい声で返事をしてくれます。暑い中の除草作業は職員でも二の足を踏んでしまいがちですが、頼もしい二人は決して嫌がるような様子を見せず、前向きに一生懸命取り組んでくれるのです。おかげ様で、大変な作業もとってもはかどりま

す。菅谷さんは一輪車を使って何度も草を捨てに行き、坂本さんは細かいところまできれいに草を抜いてくれます。みんなで頑張って作業に取り組んだ後、疲れて戻ってきた二人に、「暑い中大丈夫だった?」と聞くと、坂本さんは「暑かったけど大丈夫!」菅谷さんは「がんばったよ!」と、清々しい表情で返事をしてくれました。お2人の力でとてもきれいな園庭になりましたよ!



★なでしこグループ 「はじまりの秋」

あゆみホームには今秋、ステキな仲間が増え、実りの秋となりました。その仲間とは、いつもおしゃれな鈴木さんと、とっても快活な上野さんです。

鈴木さんも上野さんも、毎回元気にお家から通って来られますが、そんな2人を今か今かと待ちわびている姿が。玄関口で首を長くしているのは、なでしこグループの面々です。通所の皆さんが到着する時間になると、他にもわらわらとお出迎えるのメンバーが集まり始め、「おはよう」の花が咲きます。特に上野野さんの姿が見えると、待っていましたとばかりに中川さんが優しくエスコート。活動中も2人はずっと一緒にです。既に気兼ねない仲間を得て当園に慣れていく上野野さん、とっても頼もしいです。鈴木さんは、来た途端に「今日もよろしく!」を全身で表して下さいます。すると、あつという間にみんなの輪の中心・注目の的です。

制限や自粛続きの生活に、新しい風を吹き込んでくれた上野野さん、鈴木さん。ようこそあゆみホームへ。今後どうぞよろしくお願ひします。

千葉(知)

農耕班だより

「やり抜くチカラ」

生活支援員 井関秀一

今年度も柳堀さんのご家族様よりフルーツトマトの苗20本を頂きました。いつもありがとうございます。毎年恒例となりつつある中庭でのトマト栽培ですが、今年度は農耕班の中で栽培をしたい人を募り、一人一つの苗を担当してもらいました。担当してもらおう方にはプランターに名前の書かれたプレートを取りつけ誰がどの苗を担当するか目で見てわかるようにしました。プランターに培養土を入れ、苗を入れる。苗を入れたら土を被せる所から担当してもらいました。菅谷さんは「水やりを毎日やります！」と張り切り、柴田さんは毎日の観察をかかさず、実がなったのを見て大満足の笑顔。星野さん、藤沼さん、小沼さんは朝一番にトマトの状態を確認するのが日課になりました。そんな中、鳥居さんは不安から「枯らしてしまうかな」と心配に。文字が読める鳥居さんにトマト栽培のコツが書かれた用紙を見せながら説明していきましたが、やはり不安が抜けない様子でした。それから毎日観察し水やりにも気を付けながら育てていくと、背丈が大きくなり、花が咲いて大きな実がなりました。最初、不安そうにしていた鳥居さんでしたが自分の担当した苗から大きな実がなり収穫して給食で食べると、その美味しさに笑顔になり安心した様子でした。トマト栽培を通してまた一歩成長できましたね。これからもメンバーの責任感や最後までやり抜く力を育てていきながら頑張っていけます。

教育実習を終えて

「優しさに触れて」

聖徳大学3年 有馬明日香

今回の実習の前に、別の場所で障害のある方とふれあう機会がありました。その際、実は少し怖い思いをしました。その事が気になり、今回の実習でも同じ事が起こらないといいな・・・と不安を抱えて来ました。しかし、利用者さん達は初日から温かく迎え入れて下さり、あっという間に実習期間が過ぎ去ってしまいました。介助の方法であったりと、生活の中に深く関わらせて頂きとても勉強になりました。

「ミュージック・ケアを通して」

聖徳大学4年 磯野光希

今回、2度目の施設実習でしたが、前回とは違って様々な支援に携わる事ができ、とても深い学びができました。中台育心園の特徴でもあるミュージック・ケアを通して全体が一つになる時間だと感じ、とても感動しました。職員さんの工夫で、中々集団に入れない利用者さんも積極的に輪の中に入って行くことができ、普段とは違った表情も見ることが出来ました。今回の実習で学んだことを今後活かしていきたいです。

「やりがい」

聖徳大学4年 山口真由

初日は緊張のあまり、何を話したか覚えていません。でも最終日は「終わりたくないな。」と感じました。利用者さんと上手くコミュニケーションが取れず、自分でもどうしていいのか分からずにいましたが、職員さんや利用者さんが私に伝わるようにと一生懸命に関わってください、支援を学べました。利用者さんの笑顔を見て、支援の奥深さや、やりがいを感じる事の出来た実習となりました。

跡 跡 跡

【9・10月】

【寄附・寄贈】

- ▼飯島昭子様 ▼鹿嶋市社会福祉協議会様
- ▼小野口里子様 ▼福栄茂子様 ▼石田博様
- ▼池田洋様 ▼小柳良太様 ▼白石成子様
- ▼竹添幸弘様

【来園者】

- ▽永光パートナーズ 渡邊様 坂寄様(会計指導) ▼横田裕樹様(会計監査) ▼高坂防災(スプリンクラー設備点検) ▼吉崎勇三様 吉崎敏彦様(入所手続き) ▼(株)横松建築設計事務所 横松邦明様 ▼上遠野道子様(契約) ▼鹿島特別支援学校 上遠野亜矢子様(巡回) ▼鹿島特別支援学校 岡田萌様(巡回) ▼鹿島特別支援学校 平沼様(巡回) ▼小野口里子様(面会) ▼白十字健診センター様(健康診断)

【施設入所】

9/1 吉崎敏彦さん

【9・10月誕生者】

9/1 吉崎敏彦さん

▽橋爪恵子さん

10/8 上遠野郁代さん

▽眞壁裕大さん

【短期入所】

10/8 鈴木理紗さん

▽湖林健司さん

10/18(月)～10/29(金)

▽石田直也さん

▼梶田浩史さん

▽平間尚輝さん

▼梶田浩史さん

▽池田友子さん

▼梶田浩史さん

▽大部なおみさん

▼梶田浩史さん

▽藤沼光司さん

▼梶田浩史さん

▽鳥居貴裕さん